

平成6年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 7

刊行にあたって

平成6年度は、かねてより取り組んでまいりました「紙本金地著色洛中洛外図屏風」複製品完成の祝賀会を開催いたしました。本屏風は、平成元年に上杉家より寄贈を受けたもので、極めて貴重な資料であることから、公開の拡大を図ることなどを目的に複製品の制作を行ったものであります。

また、将来の新博物館建設へ向けての資料の充実を図るため、米沢市が生んだ数少ない洋画家の一人であり、一時期を築いた「椿 貞雄」の作品38架他を購入したところであります。

さて、平成6年度は、「紀州本川中島合戦図屏風」展示を初め7件の特別展を開催いたしました。本屏風は、上杉方の立場から描かれたもので、制作された歴史的背景を含め本屏風が提供してくれた情報は、多大なものであったと思われます。

当館は、管理運営をお願いしております、財団法人米沢上杉文化振興財団の御協力によりまして事業が円滑に促進するなかで、多くの方々に御観覧いただいております。

また、米沢市歴史民俗博物館構想専門委員会の意見を集約し、地域の特性を活かした新たな博物館の建設に向けての準備も着々と進めております。

今後とも、なお一層の御協力、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年3月

米沢市教育委員会

教育長 相 田 實

目 次

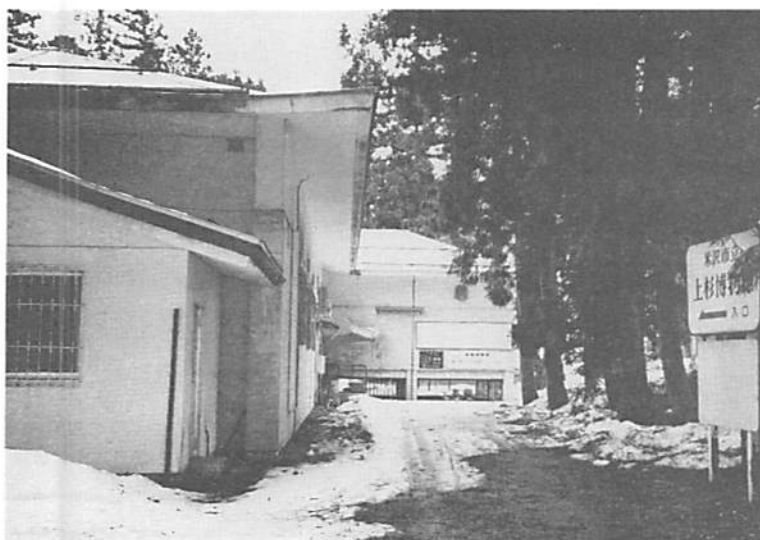
○館の概要	1
・目的と沿革	
・施設	
・博物館日誌	2
○平成6年度事業	3
・展 示	
(1) 上杉鷹山公展	3
- 初公開 重要文化財近世上杉家文書 -	
(2) 紀州本川中島合戦図屏風	5
- 沖繩市・米沢市姉妹都市提携記念 -	
(3) 第5回昆虫展	7
- 吾妻山の昆虫たち -	
(4) 新指定重要文化財長尾上杉氏印章展	9
同時開催 - 米沢ゆかりの絵師たち -	
(5) 第24回日本刀展	11
- 江戸時代の名刀展 -	
(6) 雲井龍雄生誕150年	13
- 幕末と米沢 -	
(7) 狩野文信展	15
- 没後20年 -	
・収 集	
平成6年度受入資料	17
・博物館実習	21
・平成6年度入館利用状況	24
・組織・名簿	27

館の概要

目的と沿革

米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。



施設

総面積	473.42 m ²
陳列室	129.60 m ²
展示室(兼)ホール	117.82 m ²
収蔵室	62.64 m ²
研究室	32.40 m ²
事務室	65.20 m ²
映写室	4.86 m ²
その他	60.90 m ²

昭和5年10月	元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
昭和13年4月	市政50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
昭和27年9月	博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
昭和30年9月	市立米沢図書館に移転(旧市立米沢図書館)。
昭和37年7月	博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
昭和41年11月	丸の内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
昭和42年4月	博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
昭和42年6月	博物館施設として登録。
昭和43年5月	社団法人上杉博物館協会設立。
平成2年3月	財団法人米沢上杉文化振興財団設立。

平成6年度 博物館日誌

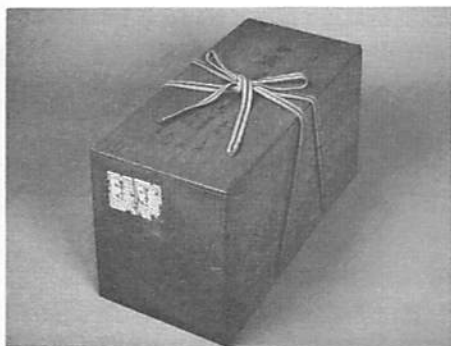
4月2日	舟山豊弘新館長 来館	13日	博物館実習
4日	コピー機交換	20日	上杉家文書調査 ～22日
8日	財団法人米沢上杉文化振興財団と業務委託契約	22日	ブラインド取付 展示室・陳列室冷房取付電源設備・冷暖房設備工事開始 ～11/20
12日	雨田孝英・梅津宮雄各氏、市立図書館より資料借用 上杉虎雄氏により上杉家文書出庫	23日	梅津宮雄氏より購入予定の資料搬入
13日	県立博物館より3名来館	25日	長野市立博物館へ文書貸出
16日	特別展「上杉鷹山公展」オープン	28日	資料購入審査会 上杉邦憲氏来館
26日	栗林家甲冑持出し	10月1日	上杉氏印章返却
5月6日	ギャラリー展示ケース打合せ	3日	刀剣博物館より刀搬入
8日	昆虫標本ミュージズキムラへ搬出	5日	特別展「第24回日本刀展－江戸時代の名刀展－」オープン ～11/6
9日	休館日 ～16日	7日	海外展出品のため文化庁へ厩図屏風搬出 テクノプラザ工業展資料貸出
17日	特別展示「紀州本川中島合戦図屏風」オープン ～29日	8日	トイレ修理（遠藤配管設備）
19日	洛中洛外図市民ギャラリーへ搬送	18日	洛中洛外図搬出（京都国立博物館）
20日	市民ギャラリー洛中洛外図特別展示 ～24日 沖縄市民団来館	25日	資料収集審査会 テクノプラザ工業展資料返却
21日	上杉邦憲御夫妻来館	28日	長野市立博物館より文書返却
28日	市長・助役他来館	11月6日	渡部守雄氏より雲井龍雄関係資料借用
6月1日	酒田市議会議員団9名来館	8日	刀剣搬出 冷暖房設備工事開始
3日	大名道具新収蔵館集會 （於 仙台市博物館 局長・角屋）	11日	財団法人米沢上杉文化振興財団の先進地博物館視察（長野県立歴史館・長野市立博物館・真田宝物館）に舟山館長出席
5日	昆虫標本ミュージズキムラへ貸出	15日	博物館実習 平成7年度予算打合せ
9日	刀剣博物館へ（局長・角屋）	18日	京都国立博物館より洛中洛外図屏風返却
27日	洛中洛外図屏風複製品完成祝賀會 （於 第一ホテル米沢）	19日	雲井龍雄生誕150年「幕末と米沢」オープン ～平成7.2.3
30日	上越市出張（角屋・遠藤）	22日	パソコン（キムラ食品社長寄贈）セットアップ 博物館実習
7月3日	本間国生夫人より米沢市に国生氏の遺品愛用品の寄贈 展示室・陳列室冷房取付打合せ（市建築課）	12月6日	博物館実習
9日	館蔵品展 ～15日	12日	市立上杉博物館管理運営懇談會
13日	市立図書館へ資料返却	13日	博物館実習
14日	県教育委員2名来館	22日	中村邦夫氏より上杉斉憲 山内豊熙短冊各1寄贈
15日	文化課よりビデオ内蔵テレビ搬入	1月13日	洛中洛外図文化庁へ搬出
16日	「第5回昆虫展－吾妻山の昆虫たち－」オープン	20日	国立歴史民俗博物館 湯浅氏来館
26日	県総務部長、他墨田区役所より2名来館	23日	佐賀県立博物館へ洛中洛外図（複製）貸出
28日	山谷文仁先生御夫妻、佐賀県立博物館学芸員川副氏来館	2月1日	遠藤宏三氏より狩野文信作品借用 上越市教育委員会より2名来館
8月3日	昆虫採集會（於 上杉神社境内）	11日	狩野文信展オープン ～3/31
24日	米沢観光協会高野氏より日本刀6本借用	12日	仙台市博物館より浜田館長来館
25日	伊藤隆夫氏菅原白竜筆六曲屏風一双借用 高橋和雄山形県知事 米沢市助役来館	25日	凍結防止用熱線工事・展示室蛍光管6本交換
27日	博物館実習	3月17日	佐賀県立博物館より洛中洛外図（複製）返却
9月1日	「新重要文化財長尾上杉氏印章展、同時開催米沢ゆかりの絵師たち」オープン ～25日 案内板カバー取付け工事	25日	椿貞雄作品（購入）搬入検品 11時で閉館
6日	埼玉県博物館協議会39名来館		

特別展示 上杉鷹山公展

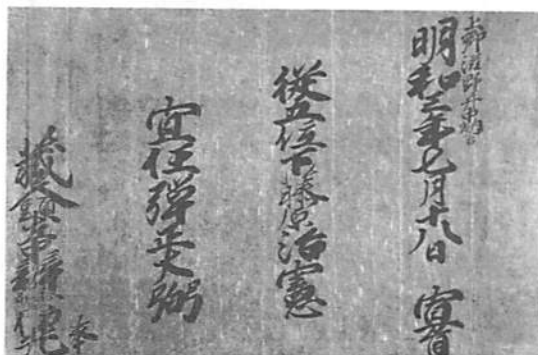
—初公開 重要文化財近世上杉家文書—

中世文書群として有名な重要文化財「上杉家文書」も近世文書については公開の機会がなかったので、ごく一部ではあるが上杉鷹山自筆文書を中心に展示した。また、師・家庭・学友・養父・側室・長男など鷹山をとりまく人々や藩校興譲館歴代堤学の書籍、関係資料、藩政策に関する資料等で構成した。それらを持って鷹山の人物像、治政に迫ろうとするものであったが、鷹山書状の考察が充分でないまま展覧会にいたったことが反省される。

会期中、和歌山県立博物館寄託の「新発見紀州本川中島合戦図屏風」を借用して特別展示があった。上杉鷹山、戦国時代、ともに世の関心が高く、入館者も多く賑わった。



上杉治憲公（鷹山）御館物記録外箱



明和3年7月18日口宣案（任弾正大弼）
上杉直丸（鷹山）元服 16歳 弾正大弼治憲と称する。

会 期：平成6年4月16日（土）
～ 6月26日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

入 館 料：一 般 500円
(400円)
学 生 300円
(240円)
小 中 生 100円
(80円)
※（ ）は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター	B2版	250枚
チラシ	B5版	5,000枚
目 録		7,000枚



出 展 資 料 目 録

国指定重要文化財 上杉家文書

上杉綱憲公御官物記録

上杉治憲公御官物記録

明和3年7月18日

上杉弾正大弼充

徳川家治一字状

明和3年7月18日

口宣案（任弾正大弼）

明和3年7月18日

宣旨（任弾正大弼）

御代々御判鑑

（年未詳）12月14日

上杉治憲書状

（年未詳）3月18日

上杉式部大輔充

上杉治憲書状

（年未詳）正月22日

上杉式部大輔充

上杉治憲書状

（年未詳）7月20日

上杉治憲書状

（年未詳）5月3日

上杉治憲書状

（年月日未詳）

上杉治憲書状

（年未詳）10月21日

上杉治憲書状

（年月日未詳）

上杉治憲書状

（年月未詳）13日

上杉治憲書状

（年未詳）7月26日

上杉治憲書状

（年未詳）9月

須田数馬筆菰戸政以遺言

（年未詳）5月15日

菰戸九郎兵衛宛 大石左

膳、須田多仲連署書状

（年未詳）7月

上杉治憲意見書

（年未詳）4月11日

上杉弾正大弼充

上杉治憲書状

（寛政元年3月25日）

上杉治憲書状

とりまく人々

師 薬科松伯 書

師 細井平洲 ブロンズ像、書

家臣 竹俣当綱 書

家臣 菰戸善政 書

家臣 木村丈八 書

家臣 黒井忠寄 肖像

学友 神保蘭室 書

藩校興譲館堤学

香坂衡山 書

坂 積翠 書

浅間南溝 書

窪田梨溪 書

片山弦斎 書

養父 東岳院様（上杉重定）御手澤品

金剛流謡曲御秘伝書

能衣装

側室 お豊の方和歌

伝 お豊の方書用鏡

長男 上杉顕孝書状

七家騒動

森平右エ門書状

七家騒動顛末

芋川家伝来 甲冑

「鉄錆色塗腰紺色糸威二枚胴具足」

色部家伝来 平笠

千坂家伝来 火事兜

薬科立沢 書

諸政策

文化10年 御国絵図

飯糰集

かてもの版木

備初的心得

備荒貯穀について

年貢完納の感状

養蚕手引

成島焼

相良人形

五子褒賞（三谷三九郎充 竹俣美作書状留）

その他

金剛流謡狂言十八図屏風

上杉駿河守家伝来 直垂 袴 子供用小袖

仕舞扇 他

一 特別展示 一

国指定重要文化財 紙本金地著色洛中洛外図

一 常設展示 一

県指定文化財 重要美術品 紙本著色庭図

重要美術品 太刀 銘長船長光 附打刀拵

紫色威二枚胴具足

旗指物

鎧下着 鎧下袴

馬甲 馬具

馬柄杓

南蛮笠

五枚張兜

九曜紋前立六十二間筋兜（栗林頼忠所用）

卍（まんじ）前立六十二間小星兜（坂田采女所用）

阿古陀型 付日根野鍛十六間筋兜

諏訪大明神前立六間筋兜

二方白十四間星兜

蛇の目前立六間筋兜

薙刀 銘奥州会津住長国 拵青具蒔絵

直江鍔

火縄銃

弾丸作り道具

上杉鉄砲隊装束

武衛流奥義書 他

沖縄市・米沢市姉妹都市提携記念
特別展示

紀州本川中島合戦図屏風

(1) 企画趣旨

平成6年、米沢市と沖縄市との間で姉妹都市を提携している沖縄市民団体が米沢に来訪するのにあわせ本展を開催することとなった。

平成4年春、和歌山県内で発見された本屏風は上杉側から描かれたものであり当市にとっては大変意義深いものであった。米沢は上杉謙信を祖とし2代景勝以来14代茂憲の藩籍奉還まで270年余りにわたり上杉氏の藩主とした城下町である。米沢最大のイベントである上杉まつりにおける川中島合戦は永禄4年(1561)の合戦を再現するものであり、多くの市民が参加し、川中島合戦に対する関心が高い土地柄である。また、本屏風は歴史的・美術的な観点からも高い評価を持つ戦国合戦図屏風の中の一つといえ、川中島合戦について一層の理解を深める機会となった。

開催初日には、「紀州本川中島合戦図屏風の内容と製作背景」と題して和歌山県立博物館学芸員高橋修氏による記念講演会を行った。



会 期：平成6年5月17日(火)
～ 5月29日(日)

主 催：米沢市・米沢市教育委員会

主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

協 力：和歌山県立博物館
上越市立総合博物館

講演会

演 題：「紀州本川中島合戦図屏風の内容と制作背景」

講 師：和歌山県立博物館学芸員
高 橋 修

日 時：5月17日(火) PM3:00～

場 所：ふれあいプラザ

関連印刷物

ポスター	B2版	250枚
チラシ	B5版	5,000枚
リーフレット	A4版	3,000枚
図録	B5版	1,200部



内容	右隻	天文23年(1554)合戦
	左隻	弘治2年(1556)合戦
形状	六曲一双	
寸法 (本紙)	右隻	1'08" × 2'72".6cm
	左隻	1'09".2 × 2'72".7cm
作者	狩野派の御用絵師か	
監修者	越後流軍学者 紀州藩士 宇佐美定祐	
スポンサー	初代紀州藩主 徳川頼宣	
成立年代	江戸前期 (17世紀後半)	
特徴	上杉方の大勝利 謙信、信玄ともに太刀による 川の中での一騎打ち	
関連する 文献資料	北越軍記 (宇佐美定祐著)	

本屏風の最大の特徴は、上杉謙信と武田信玄が川(御幣川)の中で切り結ぶ太刀と太刀との一騎打ちであり、上杉方の大勝利にある。これは、今までも誰もが思い起こす、謙信の太刀を軍配で受け止める信玄の姿とはまったく異なるものである。後者は、武田方の軍記「甲陽軍艦」に基づく解釈であり、にしむら博物館蔵の川中島合戦図屏風をはじめ映画やドラマに多く採用されているシーンである。これに対し、紀州本川中島合戦図屏風は、宇佐美定祐が「甲陽軍艦」に対抗して上杉方からの立場で著した「北越軍記」によるものと考えられる。さらに本屏風と和歌山の関係について、和歌山県立博物館の高橋修学芸員は、次のように推定されている。監修者については越後流の軍学者で紀州藩士となった宇佐美定祐。指示したのは初代紀州藩主徳川頼宣。屏風中、他の武将と区別して取り上げられている上杉謙信の架空の軍師宇佐美定行。定祐自身とその曾孫と称している。又、屏風の描写が彼の著書「北越軍記」「川中島五箇度合戦記」における記述と一致する。一方徳川頼宣は、家康の第十子で幕府内の政争に敗れて紀州に左遷された。そのため幕府・將軍家に対し強い対抗意識を持っていたといわれ、將軍家の兵法であり世の主流であった甲州流に対抗して、定祐の召し抱え越後流軍学を用いたのではないかと。屏風の豪華さや葵紋の鉾がそれらを裏付ける。以上のような観点から本屏風はまさに新発見なのである。

さて、上杉謙信を祖とし270年余りに亘って上杉氏と縁深い米沢藩に宇佐美氏一家存在する。宇佐美家河内守在次からの系譜で、次の宇佐美秀次は謙信により三代目の上杉定勝の守役等をつとめている。300万石、御馬廻組に属する。この系譜からは、米沢市長宇佐美俊太郎、宇佐美辰五郎、東京府知事や賞勲局総裁を務め貴族院議員であった宇佐美勝夫、日銀総裁宇佐美洵、宮内庁官宇佐美毅と著名人を多数輩出している。旗指物は「白地ニ丸立浪」。一方屏風三扇中央やや上に「無」の旗三つ瓶子の馬印をかかげた一隊が鉄砲を構えている。床几で戦況を睨んでいる中央の武将が、謙信の架空の軍師宇佐美内守定行である。この旗印の相違、現存するそれぞれの系図からは、米沢藩士と紀州藩士となった宇佐美氏とを結びつけるものは見当たらない。

しかし、宇佐美定行の「無」の旗印につながるものが米沢に存在する。上杉神社蔵の「唐草透彫烏帽子兜」、金色の透彫の中に浮き出る黒漆塗りの「無」の字。62間筋兜の前立「無」。(所在不明)これらは上杉謙信所用と伝えられてきたのである。謙信の用いていた「無」の印が、時を経てすりかえて使用されたのであろうか。又、謙信の毘沙門天信仰により用いられていた「毘」の旗印はよく知られるところであるが、この屏風に描かれた「毗」の字を目にすることはあまりない。市立米沢図書館蔵の米沢善本の中に寛永14年の刊本「諸將旗旅圓」3巻があり、これは徳川家康、秀忠以下諸將の旗印馬印などを図記したものであるが、この中に上杉弾正馬印「白に毗」が明記されている。屏風の成立年代などとあわせ、このような刊本が参照されたとも考えられる。

本屏風は史実を忠実に描いたものでないが、制作された歴史的背景を含め、本屏風が提供してくれる情報は多大なものである。

第5回昆虫展

— 吾妻山の昆虫たち —

(1) 趣 旨

今回で5回を数える昆虫展は私たちが生活している置賜地方、特に吾妻山の昆虫にスポットを当てた。吾妻山に生息している昆虫相の特徴、暮らし方など四季を通じて飯豊連峰などのものと比較しながら展覧し、私たちの身近に生息する昆虫たちを知ってもらいたく企画した。

今回の企画にあわせて「吾妻山の昆虫—その特徴と館蔵標本目録」と題する108頁の解説書を刊行し、来館時に読めるようにするとともに希望者に頒布した。同書によって上杉博物館に所蔵されている吾妻山の昆虫は整理の済んだグループだけでも900種に達することが明らかとなった。これらの多様な昆虫を展示では稜線地帯、針葉樹林帯、広葉樹林帯などの植生毎に、天元台スキー場などの人為環境も加えそれぞれ紹介した。

昆虫調べ相談日を会期中、毎週水、金曜日に設け、約10組の親子が標本の名前調べなどの相談に訪れた。毎週土曜日には文部省推薦の記録映画「小さな羽音—チョウセンアカシジミ蝶の舞う里」を展示室内でビデオ上映した。昆虫採集会には約30名の親子が参加し、上杉公園内の昆虫を採集した後、標本の作り方をを行った。

上杉博物館所蔵の昆虫標本は山谷文仁コレクションを母体として集積されており平成3年度現在約89,000点で山形宮城などの東北地方の昆虫標本も多く含まれ、これまで535種が記録され、そのうち山形県初記録種は1割以上の65種に達している。

会 期：平成6年7月16日（土）
～ 8月21日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

入 館 料：一 般 200円
(100円)
学 生 100円
(80円)
小 中 生 50円
(40円)
※ () は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター	A2版	250枚
目 録	B4版	8,000部
広報チラシ	B5版	5,000枚
チケット		8,000枚

昆虫採集会

日 時：平成6年8月3日（水）
時 間：午後1時30分
場 所：本館展示室



【 展 示 昆 虫 】

◎吾妻山の昆虫たち

1. 稜線地帯の昆虫（高層湿原・礫原）
2. 針葉樹林帯の昆虫
3. 広葉樹林帯の昆虫
4. 人為環境と昆虫

◎米沢市から消えつつある昆虫たち

◎世界の昆虫から

バッタ・キリギリスの仲間

◎生態画「四季虫街図」とその実物標本

◎館蔵目録標本（平成5年度整理標本）

◎生きた昆虫の生態展示

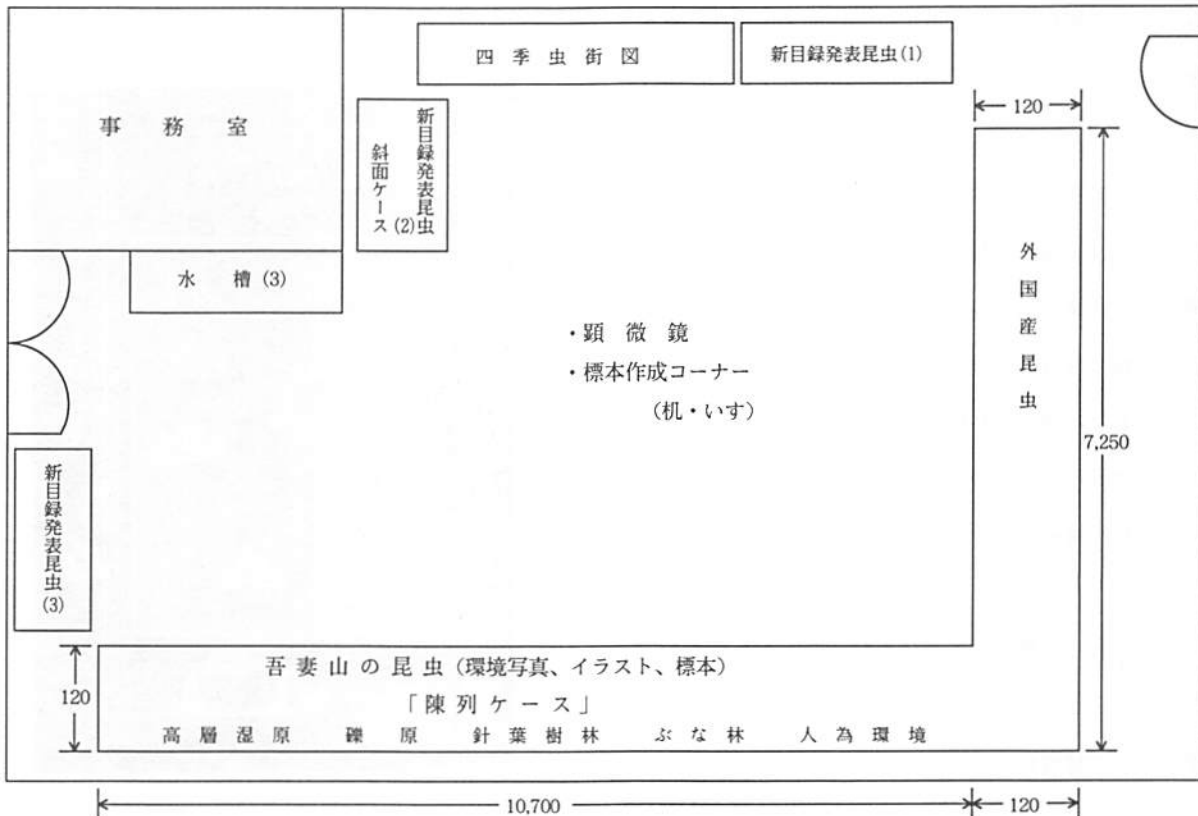
館蔵昆虫の整理・同定作業と目録の発表

*平成6年度は下記の2目25科168種2,964個体の整理・同定を行い、それらを目録(36)～(42)として上杉博物館発行の「ファウナ ウキタム」誌上で発表した。これらの中には山形県から初めて記録される種が7種類含まれているほか、水環境の悪化で現在少なくなっているタガメやコオイムシなどの水生昆虫の貴重な標本が含まれている。

目(もく)	種 類	科	種	個体数
甲虫目	食葉性コガネムシ	1	86	1,566
	食糞性コガネムシ	4	29	700
	その他の甲虫②	11	23	72
半翅目	セ ミ	1	13	369
	水 生 半 翅 類	8	17	257
計		25	168	2,964

—— 上杉博物館展示室平面図 ——

単位 : cm



特別展示

新指定重要文化財長尾上杉氏印章

重要文化財上杉本洛中洛外図屏風（複製）

同時開催 米沢ゆかりの絵師たち

平成6年新たに国の重要文化財に指定された上杉邦憲氏所蔵の長尾上杉氏印章を借用し、これらが日本の印章史上においていかに重要であるかを上杉氏による印判状の用例・印章の継続使用の事実などを紹介しながら展観した。

また、あわせて上杉本洛中洛外図屏風複製も展示した。

米沢市所蔵の重要文化財 紙本金地著色洛中洛外図（通称…上杉本）は、多くの洛中洛外図の中でも初期のもので、狩野永徳の作といわれ、天正2年（1574）に織田信長から上杉謙信に贈られたものと伝えられている。

本屏風は、平成元年に上杉家から米沢市に寄贈された極めて貴重な資料であることから、良好な状態で保存しながら相反するところの公開の拡大を図るため本市では平成3年度から約3年の歳月をかけて複製を完成させた。

制作の方法としてはコロタイプ印刷に下地の盛り上げ、金箔、金泥打ちなど高度な技術を持つ職人たちの細密な手作業による補彩・加彩を施し、色調、雰囲気など実物に限りなく近いものに仕上がっている。また後世における明らかな疵、汚れのうち、描かれた当初の形に復元可能なものは復元し、原本の経年により既に失われた情報を復元して示す当初形態復元を行っている。

この複製は、細密なうえに複製品の代表となるうる極めて良好な仕上がりであり、本市では常時展観する便宜的な代替資料ではなく、平成の洛中洛外図として

後世に引き継いでいきたいと考えている。

同時開催として、米沢ゆかりの絵師たちの屏風、掛軸などを幕末から明治初期の文人画・南画を中心に紹介した。

会 期：平成6年9月1日（木）
～ 9月25日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

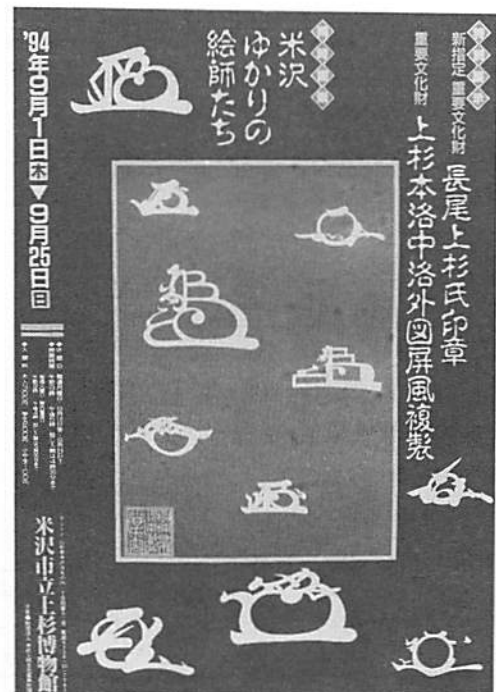
主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

料 金：一 般 300円
(240円)
学 生 200円
(160円)
小 中 生 100円
(80円)

※（ ）は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター B2版 250枚
目 録 B5版 2,000枚



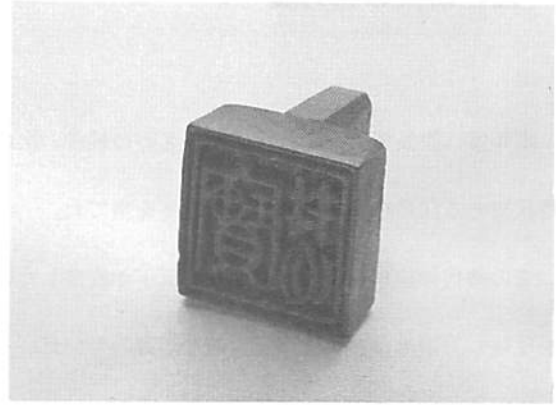
新指定 重要文化財 長尾上杉氏印章 27 顆
 附 上杉氏歴代藩主印章
 61 顆

平成6年4月15日指定

出展目録

長尾上杉氏印章 27 顆

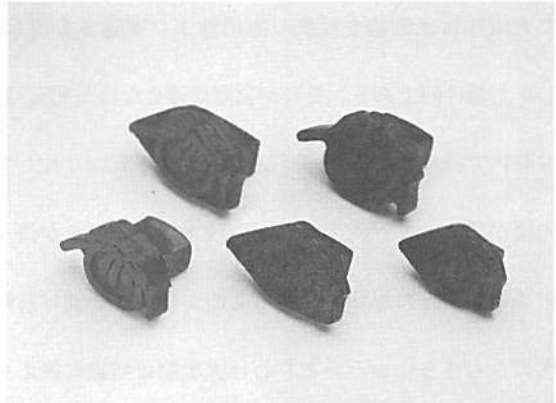
1. 長尾晴景・花押
2. 上杉謙信・印章・花押
3. 上杉謙信・上杉景勝・印章
4. 上杉景勝・印章・花押



上杉謙信印章「宝在心」

上杉氏歴代藩主印章 61 顆

5. 上杉定勝・花押
6. 上杉綱勝・花押・黒印
7. 上杉綱憲・花押・黒印
8. 上杉吉憲・花押
9. 上杉宗憲・花押・黒印
10. 上杉宗房・黒印
11. 上杉重定・花押・黒印
12. 上杉治憲・花押・黒印
13. 《上杉顕孝・花押》
14. 上杉治広・花押
15. 上杉斉定・花押・黒印



上杉治憲（鷹山）花押判

※上杉顕孝は上杉治憲（鷹山）の長男で、治広の世子となったが、19才で病のため亡くなった。

米沢ゆかりの絵師たち

出展目録

名称	作者	員数	形態	所蔵者
山水図屏風	目賀多 信 济	半双（六曲一双のうち）	紙本墨画	米沢市立上杉博物館蔵
草木花図（粉本）	目賀多 信 济	一卷	紙本着色	米沢市立上杉博物館蔵
破墨山水	小 野 寒 江	一額	紙 本	個人
花鳥図	小 野 寒 江	一幅	絹本着色	米沢市立上杉博物館蔵
戯花之蝶	谷 文 晁	一幅	絹本着色	米沢市立上杉博物館蔵
山水婦去来之図	春 木 南 溟	一幅	絹本着色	個人
月梅之図	渡 部 赤 水	一幅	絹本墨画	個人
竹森七賢人之図	八 木 米 慎	一幅	絹本着色	米沢市立上杉博物館蔵
明月過雁	浜 崎 木 麟	一幅	絹本淡彩	米沢市立上杉博物館蔵
花鳥図屏風	菅 原 白 龍	六曲一双		個人
浅絳山水図	菅 原 白 龍	一幅	絹本淡彩	米沢市立上杉博物館蔵
春景山水	下 条 桂 谷	一幅（三幅対のうち）	絹本着色	米沢市立上杉博物館蔵

第24回日本刀展 江戸時代の名刀展

本年度は慶長新刀を含む桃山期の名刀に続き、次の時代である江戸時代の名刀にスポットを当てた。

この時代は徳川幕府の体制が整い天下が安定したのを反映し刀鍛冶は主に江戸と大坂で活躍していた。そしてその環境・顧客層の相違からそれぞれ異なる特徴を生んだ。江戸物はあくまで武士の腰物としての重要性を強調し美感を二義的なものとして捉えたのに反して大坂物は土地柄を反映し実用性より華麗さを現し、しかも個性的である。それが頂点に達したのが寛文・延宝時代で概ね2尺3寸5分前後の寸法で、元幅に比して先幅が狭まって元先の幅差が一段とつき、反りが浅く中鋒のつまった形状を呈するものが多い。地鉄は前時代よりもさらにつみ、とりわけ大坂物は精緻な鍛えをあらわしている。また江戸物は鎬地の証が一際目立っているところに特色がみられる。

展示した28口の中には、徳川吉宗の姉にあたる上杉綱憲の正室が輿入れの際に持参した難刀や、幕末の池田屋事件の功績により会津藩主松平容保から新撰組の近藤勇が賜ったと伝えられる刀もあり注目を集めた。

会 期：平成6年10月5日（水）
～ 11月6日（日）

主 催：米沢市立上杉博物館

共 催：山形県
財団法人日本美術刀剣保存協会
米沢支部

後 援：財団法人日本美術刀剣保存協会

主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

入 館 料：一 般 500円
(400円)
学 生 300円
(240円)
小 中 生 100円
(80円)

※（ ）は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター	B2版	250枚
目 録		5,000枚
図 録	B4版	600部
チケット		6,000枚



展示目録

1.	薙刀	銘	梅忠美平作	長さ 1尺4寸6分半
2. 重要刀剣	刀	銘	於大坂和泉守国貞作之	長さ 1尺3寸0半
3. 重要刀剣	刀	銘	河内守藤原国助	長さ 2尺4寸6分強
4. 重要刀剣	刀	銘	井上真改(菊紋) 延宝2年8月日	長さ 2尺3寸5分半
5. 重要刀剣	脇指	銘	井上真改(菊紋) 延宝2年2月日	長さ 1尺6寸
6. 特別重要刀剣	脇指	銘	津田越前守助広 延宝6年8月日	長さ 1尺8寸3分
7.	刀	銘	津田近江守助直 元禄6歳2月日	長さ 2尺3寸3分半
8.	刀	銘	越後守包貞	長さ 2尺3寸1分
9.	脇指	銘	栗田口一竿子忠綱 彫同作 元禄15年8月日	長さ 1尺7寸6分半
10. 重要刀剣	刀	銘	長幸於摂津国作之	長さ 2尺8寸
11. 重要刀剣	刀	銘	大和守吉道(初代)	長さ 2尺5寸0半
12. 重要刀剣	刀	銘	(葵紋) 康繼以南蛮鉄於武州江戸作乃(江戸三代)	長さ 2尺4寸9分半
13. 重要刀剣	刀	銘	(葵紋) 康繼以南蛮鉄於武州江戸作乃(江戸四代)	長さ 2尺3寸5分弱
14. 重要刀剣	刀	銘	和泉守兼重 胴三重同時二度打落下 前代未聞剣 山野勘十郎切之(花押)	長さ 2尺3寸6分強
15. 重要刀剣	刀	銘	上総介藤原兼重	長さ 2尺5寸弱
16.	刀	銘	長曾祢奥里虎徹入道 万治4年卯月19日 (金象嵌) 山野勘十郎成久(花押印) 三ツ胴裁断	
17. 重要刀剣	脇	差	長曾祢奥里虎徹入道 同作彫之 寛文元年8月日	長さ 1尺5寸1分半
18. 重要刀剣	刀	銘	住東叡山忍岡辺 長曾祢興正 延宝2年6月吉祥日	
19.	刀	銘	長曾祢興正 延宝3年卯3月28日 (金象嵌) 砂河伊兵衛久重(花押) 貳ツ胴切断	
20. 重要刀剣	刀	銘	近江守法城寺橋正弘 寛文5月日 (金象嵌) 山野加右衛門行年66歳永久(花押) 貳ツ胴及び両三度切落之	長さ 2尺7寸9分半
21. 重要刀剣	刀	銘	武州出羽守源光平 承応2年8月吉日	長さ 2尺2寸9分半
22. 重要刀剣	刀	銘	対馬掾橘常光	長さ 2尺3寸6分半
23. 重要刀剣	刀	銘	陸奥大掾三善長道 延宝丁巳年8月日	長さ 2尺2寸8分強
24. 重要刀剣	刀	銘	肥前国住近江大掾藤原忠広	長さ 2尺5寸
25.	刀	銘	肥前国住近江大掾藤原忠広	長さ 2尺3寸5分半
26. 特別重要刀剣	刀	銘	肥前国住陸奥守忠吉	長さ 2尺5寸1分
27. 重要刀剣	刀	銘	(一葉葵紋) 主水正藤原正清	長さ 2尺4寸5分半
28. 特別重要刀剣	刀	銘	(一葉葵紋) 主馬首一平安代	長さ 2尺5寸2分半

雲井龍雄生誕150年 「幕末と米沢」

天保15年(1844)米沢市袋町(現、松が岬二丁目)に生まれた志士で詩人の米沢藩士、雲井龍雄生誕150年を記念して開催した。併せて激動の時代を駆け抜けた米沢藩の人々を紹介し、米沢の歴史における幕末、明治維新という時代を考察してもらいたく企画した。その資料として御上洛御行列図、戊辰戦争米沢藩軍衣、米沢藩通用鉛銭等を展示した。また、人物として上杉斉憲、上杉茂憲、色部久長、千坂高雅、宮島誠一郎等を紹介し、その役割を考察した。

雲井龍雄が江戸や京都で交流のあった志士からの書状群(個人蔵)は初公開で龍雄の行動と周辺の人物像を知ることができた。

博物館の入館者は圧倒的に観光客が多いのであるが、本展と次の「狩野文信展」は郷土の人物とあって比較的地元の人々が足を運んでくれた展覧会であった。

雲井龍雄 天保15年～明治3年(1844～1870)

天保15年(1844)米沢市袋町(現、松が岬二丁目)に生まれる。米沢藩士、中島総右衛門の次男。18歳の時、同藩小島才助の養子となる。本名小島龍三郎。遠山翠、桂香逸、一木緑などの変名も用い、「雲井龍雄」の名は25歳の頃から使用した。藩校興譲館友于堂に学び、抜群の成績で詩作や文章には天性の才を示した。米沢藩の江戸藩邸警備で江戸在勤の間、安井息軒の三計塾に通い、そこで時勢に対する目を養っていた。慶応3年(1867)藩命により京都にて多くの志士と交わり諸藩の内情を探るなど中央の政権闘争の渦中で活躍した。明治3年(1870)4月新政府に対して陰謀の計画があるとして逮捕され米沢に送られた。同年8月再び東京に檻送され12月26日小伝馬町牢屋敷で斬首され、小塚原(現、東京都荒川区南千住)にさらされた。27歳。彼は詩人としても才を発揮し、その詩は藩閥政府への抵抗を続けた彼の一生同様、その精神を読む人に伝える。

- 会 期：平成6年10月1日(木)
～ 11月6日(日)
- 主 催：米沢市立上杉博物館
- 主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団
- 料 金：一 般 300円
(240円)
学 生 200円
(160円)
小 中 生 100円
(80円)
※()は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

- ポスター B2版 250枚
目 録 A4版 3,500枚



雲井龍雄肖像画

出展目録

雲井龍雄関係資料

雲井龍雄書並浜崎木麟筆肖像画
雲井龍雄日記屏風
小島龍三郎宛入布新（永倉新八）書状
甲村休五宛林・近松書状
小島大先生宛渡部抑寿書状
中嶋宛竹俣書状
中嶋宛片山書状
小島宛甲村休五書状
遠山翠宛藤江倫書状
遠山翠宛長松文輔書状
小島龍三郎宛中村静一郎書状
小島龍三郎宛長倉徳介書状
雲井龍雄先生討薩檄 夏井範鑑書
雲井龍雄肖像写真
雲井龍雄関係史跡写真パネル
興讓館之図
友于堂篇額

幕末維新期の米沢藩人物群像

山田螭堂書 大学者 雲井龍雄の師
片山弦斎書 興讓館提学
窪田茂遂書 興讓館提学山田螭堂門下
上杉齐憲書 同肖像写真 米沢藩主
上杉茂憲書 同肖像写真 米沢藩主・伯爵
千坂高雅書 奉行（国家老） 官僚
千坂家伝来火事兜
色部長門書 戊辰戦争で戦死した米沢藩総督
色部家伝来「最明寺笈の竹」紋平笠
（谷文兆画）宮島誠一郎讚 官僚・詩人

幕末維持期関係資料

御上洛御行列図
「御上洛御用掛供奉御役人附」木版製図
戊辰戦争米沢藩軍衣
紺色糸威鉄黒漆塗腹当付革製兜
陣羽織
赤熊・黒熊・白熊
ミニ一銃
米沢藩通用鉛銭
西郷札 他



特別展

没後20年 狩野文信展

狩野文信は明治23年、山形県川西町玉庭に生まれ、大正4年、狩野探令守純に入門。清貧に甘んじながらも狩野派の伝統をかたくなに守り、昭和31年狩野派正統を引継ぎ米沢市大町に“大仙洞”画房を構えた。

本展は、米沢における狩野派最後の絵師として、山水、神仏画に彩管をふるった狩野文信の没後20年を機して開催。

米沢で過ごした中期から後期の作品を通してその芸術観、人生観の一端にふれようとするものであったが来館者には堪能いただけただよう。

ご遺族のご協力を得て略年譜をつくることができ、おおむねその生涯を把握できた。

会 期：平成7年2月11日（土）
～ 3月31日（金）

主 催：米沢市立上杉博物館

主 管：財団法人米沢上杉文化振興財団

入 館 料：一 般 300円
(240円)
学 生 200円
(160円)
小 中 生 100円
(80円)

※（ ）は20名以上の団体割引料金

関連印刷物

ポスター B2版 250枚
目 録 5,000枚

狩野文信略年譜

年 月 日 (西 曆)	年 齢	主 な 事 項
明治23年7月4日 (1890)		南置賜郡玉庭村大字明才5464 (現在の川西町玉庭) 川嶋文吾の二男として生まれる。 (本名川嶋 文)
明治40年3月 4月 9月 (1907)	17歳	山形県立米沢工業学校染色科卒業 大坂モスリン株式会社に入社 同社退社
大正4年10月 (1915)	25歳	酒井弥惣、結城豊太郎、その有志者の協力を得て、京都美術工芸学校教授狩野探令(山形県新庄市出身)の東京上野の画塾に入門玉峰、令峰、三休、文信の雅号を用いる。以後、北海道、九州、朝鮮、満州などを筆硯行脚
大正9年5月 (1920)	30歳	仏画に専念するため、南陽市赤湯東正寺菊池玉林老師に師事
大正11年2月 (1922)	32歳	茨城県日立市、真言院にて修業
昭和3年 (1928)	38歳	米沢に帰省。登坂又蔵(米沢市長昭和3年～19年)旧宅に住む。この後、米沢市大町二丁目に移り画房を「大仙洞」と称する。第一画房は東京都北区田端の「探玄房」。
昭和15年11月 (1940)	50歳	満州奉天市に赴く
昭和31年春 (1956)	66歳	狩野派(鍛冶橋狩野家の流れをくむ)正統を引き継ぎ「狩野法眼探玄斎藤原文信」と名のる
昭和33年春 (1958)	68歳	美術倶楽部山形支部顧問となる
昭和34年4月 11月 (1959)	69歳	上杉神社宝物殿に川中島一騎打ちの図を奉納したことにより、上杉神社より感謝状。 上杉神社社頭の興隆に寄与した功績に対し、山形県神社庁より表彰
昭和36年1月 (1961)	71歳	NHK ラジオ「朝の訪問」に出演
昭和45年5月 (1970)	80歳	福島県猪苗代湖畔で天皇、皇后両陛下をお迎えして行われた全国植樹祭の折、旧知の高木源次郎氏に贈った色紙が宮内庁侍従職木下通雄氏の目にとまり、たつての所望により贈呈される。
昭和46年9月 11月 (1971)	81歳	画業を通じて人心の教化、文化の向上に寄与した功績により、松岬賞を受章。 芸術文化の高揚に寄与し、地方文化の振興に貢献した功績により、篤行者として米沢市より表彰。
昭和50年6月 (1975)	85歳	画業60年にして亡くなる。 法名「伝統院法眼文信居士」、墓所は米沢市東寺町真福寺。

出展目録

吞陀羅經文	一幅	紙本墨書・淡彩	個人
兔之図	一幅	絹本着色	個人
十三佛	一幅	紙本淡彩	個人
甲子大黒天	一幅	絹本淡彩	個人
月見寒山拾得	一幅	紙本淡彩	個人
羊之図	一幅	絹本着色	個人
鍾馗之図	一幅	紙本着色	個人
龍之図	一幅	絹本墨画	個人
巳之図	一幅	絹本着色	個人
宝来画	三幅対	絹本着色	個人
破墨山水図	双幅	紙本墨画	個人
釈迦如来尊図	一額	紙本着色	個人
扇画山水図	一扇	紙本墨画	個人
色紙 水墨山水	一枚	紙本墨画	個人
釈迦出山図	一幅	紙本墨画淡彩	個人
連掛	双幅	紙本墨書	個人
湯野浜の景	一幅	紙本淡彩・墨書	個人
狸和尚	一幅	紙本淡彩	個人
富士山	一幅	紙本墨画淡彩	個人
破墨山水図屏風六曲	一双	紙本墨画	個人
閻魔大王・左甚五郎	一幅	紙本淡彩	個人
富士山	一額	紙本墨画	個人
毘沙門天図	一幅	紙本着色	個人
達磨図	一幅	紙本墨画着色	個人
十三佛(紺地金泥描)	一幅	紙本着色	個人
高砂図	双幅	絹本着色	個人
張雑せ屏風	六曲一隻	紙本着色	個人
衝立(唐獅子・達磨図)	一枚	紙本着色	個人
色紙 戯画(牛)	一枚	紙本墨画淡彩	個人
色紙 俄か雨	一枚	紙本墨画淡彩	個人
色紙 龍之図	一枚	紙本墨画	個人
色紙 武者図	一枚	紙本墨画淡彩	個人
色紙 瓢箪・斧	一枚	紙本淡彩・墨書	個人
色紙 藁打ち	一枚	紙本淡彩・墨書	個人
色紙 鍾馗図	一枚	紙本着色	個人
色紙 文信手形	一枚	紙本墨書	個人
年賀状 太鼓と三味線	一枚		個人

葉書 衣干し	一枚		個人
釣人図	一幅	紙本墨画淡彩・墨書	個人
寒山拾得之図	一幅	墨本淡彩	個人
六歌仙図	一幅	紙本墨画淡彩	個人
狩野探令・文信師弟 合作 破墨山水図	一幅	紙本墨画	個人
寒山拾得	一幅	紙本墨画淡彩	個人
観音図	一額	絹本着色	個人
悲母観音像	一幅	絹本着色	個人

狩野文信 遺品

狩野文信落款印	一八顆		個人
硯	一面		個人
文机	一台		個人
坐卓	一台		個人
アルバム	二冊		個人
作品写真集	三冊		個人
粉本・スケッチ集	一冊		個人



収 集

平成6年度受入資料

分類	資 料 名	件・点数	受入種別	寸 法 (cm)	
武具類	重藤の弓	1	購入		
	空穂	1	購入		
	弓がため (文化七年十月吉日)	1	購入		
	弓懸 (鞣革)	1	購入		
	鞭 (節竹)	1	購入		
	馬柄杓 (青貝散し)	1	購入		
	馬柄杓 (黒漆塗)	1	購入		
	馬柄杓-口洗- (朱漆塗)	1	購入		
	小型馬具	1	購入		
	鞍・鍔・表敷・障泥・轡・三懸 (面懸・胸懸・尻懸 (鞞))				
	馬盥	1	購入		
	馬曳きの鍔	1	購入		
	平陣笠 (家紋入り・南蛮鉄)・腹当・籠手				
	武者弁当 (黒漆塗二段重・内朱塗)	1	購入		
	背負網袋	1	購入		
	革製雷管入-戊辰戦時使用-	1	購入		
	藩兵肩印-戊辰戦時使用- (麻布四枚)	1	購入		
	笈型鍔櫃 (二枚)	1	購入		
	雁 棒 (米沢藩使用)	1	購入		
	雁 棒 (米沢藩使用)	1	購入		
	船手鉤 (")	1	購入		
	六尺棒 (")	1	購入		
	鍛鉄製蕨口	1	購入		
	指貫籠手-鞣革亀甲綴-	1	購入		
	胴-麻地に亀甲綴鎖繋ぎ-	1	購入		
	鎖鍔-小人用-	1	購入		
胴・籠手 (胴前面に金箔押)					
民具類	望遠鏡 (桐箱入)	1	購入		
	騎馬武者図 (探雲斎筆) 文政八酉年三月十五日	1	寄贈		
	騎馬武者図 (筆者不詳) 文化六己巳年三月十五日	1	寄贈	75.0 × 85.1	
	武者図 (筆者不詳) 安永三年十二月十五日	1	寄贈	89.0 × 99.5	
	武者図 (筆者不詳) 弘化四丁未年三月十五日	1	寄贈	69.8 × 89.7	
	端溪硯 付硯箱 (本間画伯愛用品)	1	寄贈		
	端溪硯 (本間画伯愛用品)	1	寄贈		
	唐墨 魯按国製 (本間画伯愛用品)	1	寄贈		
唐墨 程君房製 (本間画伯愛用品)	1	寄贈			
書 跡	上杉齊憲書 短冊	1	寄贈		
	山内土佐守豊熙書 短冊	1	寄贈		
絵 画	藻江画帖 (石倉多異花 画)	1	寄贈		
	寂しき樹木 (竹久夢二 画) 水彩	1	寄贈		
	白馬の春 (広瀬功 画) 油彩	1	寄贈	キャンバスF 8 45.5 × 37.9	
	戸 (外) 川風景 (椿貞雄 画) 油彩	1	購入	キャンバス20号・劉生額・木製金箔仕上げ	
	自画像 (椿貞雄 画) 油彩	1	購入	キャンバス10号	
	睡蓮図 (椿貞雄 画) 油彩	1	購入	キャンバスP 25 60.6 × 80.3	
	ぼたん図 (椿貞雄 画) 油彩	1	購入	キャンバスF 30 72.7 × 90.9	

分類	資 料 名	件・点数	受入種別	寸 法 (cm)
	大浦天主堂 (椿貞雄 画)	1	購入	キャンバス M30 90.9 × 60.6
	妙義山 (椿貞雄 画)	1	購入	キャンバス M30 60.6 × 90.9
	長崎港夕日 (椿貞雄 画)	1	購入	キャンバス F 10 53.0 × 45.5
	彩子像 (椿貞雄 画)	1	購入	キャンバス F 8 45.5 × 37.9
	(少女像) (椿貞雄 画)	1	購入	キャンバス F 4 33.4 × 24.3
	果物 (椿貞雄 画)	1	購入	板 4号大 24.3 × 33.4
	静物 (椿貞雄 画)	1	購入	板 F10 45.5 × 53.0
	アンドレ像 (椿貞雄 画)	1	購入	紙 P10大 53.0 × 39.4
	朴の花 (椿貞雄 画)	1	購入	和紙 51.0 × 66.0
	泰山木 (椿貞雄 画)	1	購入	50.0 × 64.5
	拓榴 (椿貞雄 画)	1	購入	31.5 × 34.0
	紫陽花 (椿貞雄 画)	1	購入	40.9 × 60.6
	椎茸と柿葉 (椿貞雄 画)	1	購入	32.0 × 42.0
	旬 (椿貞雄 画)	1	購入	40.0 × 52.0
	冬瓜と唐辛子 (椿貞雄 画)	1	購入	33.0 × 37.0
	柿図 (椿貞雄 画)	1	購入	40.8 × 53.0
	こぶし (椿貞雄 画)	1	購入	32.0 × 45.0
	燕図 (椿貞雄 画)	1	購入	26.5 × 48.5
	(庭草…) (椿貞雄 画)	1	購入	42.3 × 33.2
	蟹とえびがに (椿貞雄 画)	1	購入	32.5 × 52.5
	菊雀図 (椿貞雄 画)	1	購入	68.0 × 98.0
	村娘愛果図 (椿貞雄 画)	1	購入	40.0 × 52.0
	釣をする風景 (椿貞雄 画)	1	購入	48.7 × 70.0
	乙女椿花図 (椿貞雄 画)	1	購入	31.0 × 46.0
	パイナップルと柚子 (椿貞雄 画)	1	購入	44.0 × 60.0
	きのこ (椿貞雄 画)	1	購入	19.0 × 54.0
	秋草図 (椿貞雄 画)	1	購入	96.0 × 38.0
	田螺 (椿貞雄 画)	1	購入	23.0 × 51.0
	冬瓜図 (椿貞雄 画)	1	購入	46.0 × 60.0
	少女像 (椿貞雄 画)	1	購入	28.0 × 23.5
	童女像 (椿貞雄 画)	1	購入	27.5 × 22.0
	夏子像 (椿貞雄 画)	1	購入	40.5 × 28.0
	朝子桃割図 (椿貞雄 画)	1	購入	36.0 × 25.5
	大浦天主堂裏風景 (椿貞雄 画)	1	購入	板 F 25 80.3 × 65.2
写 真	本間国生 肖像	1	寄贈	



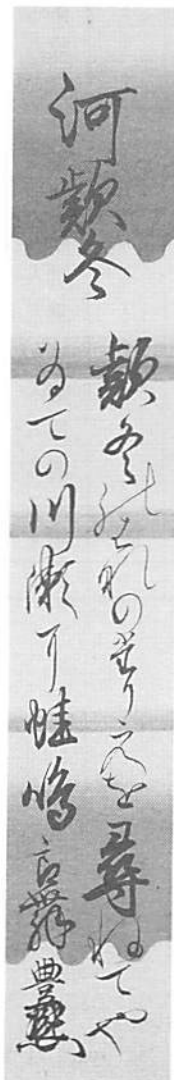
大浦天主堂裏風景 椿貞雄 画



寂しき樹木 竹久夢二 画



短冊 上杉齊憲 書



短冊 山内豊熙 書



端溪硯 本間国生 愛用品

米沢市立上杉博物館収蔵資料件数（平成6年度）

収蔵資料整理中につき、平成7年3月31日までに確認した収蔵資料件・点数を掲載する。

大 分 類	中 分 類	件 ・ 点 数	
書 跡			150
絵 画			326
美 術 工 芸 品	陶 磁 器	45	144
	土 人 形	66	
	彫 そ の 刻	12	
	そ の 他	21	
武 具 類			90
民 具 類	衣 装	62	149
	看 板 ・ 棟 札 類	21	
	貨 幣 他	13	
	そ の 他	53	
文 献	個 別 文 書	61	1,483
	嶋 津 文 書	6	
	宇 津 江 文 書	15	
	杉 原 文 書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	
写 真			9
歴代市長・議長肖像			32
自 然 科 学	動 物	93	95
	そ の 他	2	
そ の 他			
		計	2,394

博物館実習

本年度は地元の山形県立米沢女子短期大学が学芸員資格取得コースを開設したこともあり実習生が10名に及んだ。

以下実習記録と実習生のノートより所感を一部掲載する。

実習生	大学名	期間
伊藤あゆみ	郡山女子短期大学部	6年8月27日～ 9月3日
大浦美樹	東北学院大学	6年8月27日～ 9月3日

博物館実習計画

8/27	博物館案内・博物館概説・展示作業・解説文作成
8/30	図書整理・解説文作成
8/31	展示作業・キャプション作成
9/ 1	色見本作成・資料整理
9/ 2	昆虫防腐剤補給
9/ 3	武具の取扱い・古文書の取扱い・実習のまとめ

伊藤さんの「実習まとめ」より

特にキャプション製作は忘れられません。資料（くし、かんざし、こうがい、中ざし、巻物、刀、よろいなど）を実際に扱えて感激しています。

先生から上杉博物館になると、郷土中心になってしまうということを聞きましたが、郷土史の方が興味をもてるものになり、もっと上杉家について知りたいと思うようになりました。

大浦さんの「実習の感想」より

この実習で私は本当にいろいろな事を学びましたがなんととっても一番大変だと思った実習は解説文作成でした。まったく知らない人物などもいてなんのどんな本を見ればよいのかわからず苦労しました。

解説文で重要なことは、一般の博物館利用者の目にふれることでまちがっていたりするのはもちろん本当かどうかわからない情報などは当然使用できないことと、利用者年齢は一定ではないため子供から年齢層の高い方までみんなが理解してくれることです。

実習生	大学名	期間
阿部瑞穂	米沢女子短期大学	6年9月13日～ 9月18日
加藤真紀子	米沢女子短期大学	6年9月13日～ 9月18日

博物館実習計画

9/13	博物館案内・博物館概説・図書整理
9/14	展覧会ポスター発送準備・観覧券作成
9/15	掛軸の取扱い・印章の額作り・拓本のしん作り
9/17	観覧券の作成・標本整理・防虫剤入れ
9/18	資料写真の整理・刀剣・武具の取扱い

阿部さんの「実習日誌」より

9月17日 標本整理・防虫剤入れ

標本整理をする前にしていただいたお話で小さな虫たちの隠れた力を知ったような気がします。その虫がそこに「在る」ことによってわかることが意外に多いのだと思いました。

一見無関係にも思える虫達の時の流れを伝える秘めた力を感じることができてよかったと思います。

加藤さんの「実習の感想」より

博物館は多くの資料を見てもらうところだと思っていただけにこの5日間は今までの考えを改めるのによい機会になりました。

今回特別展の準備をやらせてもらいましたが、展示会一つ開くのに頭と体力を使うことがよくわかりました。

最初の概説のときに訪れる人の大半が観光客だと聞

いて驚きました。地元の人たちに関心を持ってもらえるような展示ができるように1日も早く新しい博物館ができるといいと思います。

実習生	大学名	期 間
佐藤淳子	上越教育大学	6年11月11日～ 11月27日
鈴木智子	上越教育大学	6年11月11日～ 11月27日

博物館実習計画

11/15	博物館概説・館内整理
11/16	ポスター発送準備・発送
11/17	展示準備
11/18	〃
11/19	古文書の取扱い
11/20	掛軸・巻物・武具の取扱い
11/22	図書整理・博物館関係台帳作成
11/23	博物館収蔵品整理（昆虫）
11/25	〃
11/26	博物館関係機関台帳作成
11/27	〃

佐藤さんの「実習の感想」より

米沢市という街が昔から「上杉の城下町」あるいは「伊達政宗生誕の地」などといわれ、歴史や文化、伝統産業などが古くから栄えてきた。その米沢と密接な関係があって上杉博物館が運営されているということが改めてわかった。貴重な資料や所蔵品の価値を一人でも多くの人々に理解していただき、その保存と展示のバランスを保持しながら大切に後世に残していこうと姿勢が学芸員の角屋さん、遠藤さんの日々のご指導の中から感じとることができたように思います。

鈴木さんの「実習の感想」より

来年度からは教師として米沢に戻ってくるのが決

まっている。この時期に学芸員として実習をしたことに大きな意義がある。学校教育と博物館は密接に関連している。学芸員は専門分野での研究を進めていく職であり、わたしにとって憧れの職業である。小学校の教師は、専門を深めるよりも、より広い知識を持ち指導していかなくてはならない。児童・生徒が足を運びやすく、学ぶことができる教育施設として博物館が整備されることを望む。他の教師とは違って、博物館でいろいろなことを学ぶことができ、美術品を守る大切さを知った。簡単にしてしまわず、一つひとつに異なった保存を施す。まるで生き物のようである。モノは何百年と生きる。私たちは、ほんの数百年を供するだけである。そのことを子供たちに理解させたい。そして、子供達だけでなく大人たちにも理解してもらわなくてはならないと思う。

実習生	大学名	期 間
大橋優子	米沢女子 短期大学	6年12月6日～ 12月11日
川島美紀	米沢女子 短期大学	6年12月6日～ 12月11日

博物館実習計画

12/ 6	博物館案内・図書整理・資料整理
12/ 7	展示会の準備・解説カード作成・収蔵品整理
12/ 8	ポスター整理・分類
12/ 9	〃 ・資料整理・巻物、掛軸の取扱い
12/10	収蔵品整理（「杉原家文書」）
12/11	〃 伝国の辞包装、武器・武具の取扱い

大橋さんの実習を終えての感想より

今回の実習では客の立場から見ることでできない博物館の実態、つまり細かくいえば保存上の問題点や苦勞、仕事の多さ、展示の仕方、資料の扱い方、資料に向かい合う姿勢について、直接目と耳と手と体全体で

感じ、学芸員の皆様や職員の方々の大変さを知ることができたと思います。皆さんに親切にしてください「破損したらどうしよう」ときっと不安でいられたらうに貴重な資料等を扱わせていただいております。

川島さんの実習を終えての感想より

学芸員の仕事のほんの一部ですが、実際にやって見て、ただ展示して保存するだけでなく、博物館としての機能を十分に果たすためには、収蔵品の整理や保存、博物館関係機関台帳の作成、ポスター作成など、来館しただけでは知ることのできない、数多くの仕事があるということであらためて感じました。また、博物館の内容を充実したものにするかどうかは、学芸員の腕にかかっているということをも身をもって知り、この仕事の責任の重さを感じることができました。

実習生	大学名	期 間
下村紀子	米沢女子	6年12月13日～
	短期大学	12月18日
塚原裕美	米沢女子	6年12月13日～
	短期大学	12月18日

博物館実習計画

12/13	ポスター貼り・博物館概説・陳列室平面図作成
12/14	展示パネル作成・昆虫目録カード作成・陳列室平面図作成
12/15	平面図作成・拓本梱包
12/16	” ・博物館受入図書整理
12/17	掛軸の取扱い
12/18	巻物取扱い・ひも結び・武具の取扱い・受入図書の整理

下村さんの実習の感想より

実習初日には初めて2階へ上がり、図書の棚と昆虫標本を見せていただいたときには驚きとともに「一般公開になれば皆興味のある本ばかりなのではないか」ととても残念に思った。今度博物館を大きくするときには必ず本を自由に閲覧できるようにしてほしいと思った。

塚原さんの実習の感想より

机上の作業から掛軸、巻物などの取扱いまで実に様々な事を体験させていただき、学芸員の活動範囲の幅広さを実感させられました。

博物館の業務のみならず、社会の厳しさも教えていただきました。学芸員という職業は信用が大切なのだという言葉は重く、耳から離れません。そのことをわきまえ、今後の生活ではしっかりした人間性を培っていきたいと思います。

平成6年度 入館利用状況

特別展入館者数

	展覧会名	会期	日数	一般	学生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	その他	合計
1	上杉鷹山公展	4月16日～ 6月26日	57日	6,879人 4,939,500円	611	557	563	172	89	0	11,871人 5,452,100円
2	第5回昆虫展	7月16日～ 8月21日	32日	4,553人 910,600円	399	1,514	273	0	38	0	6,777人 1,071,400円
3	長尾上杉氏印章展	9月1日～ 9月25日	21日	2,779人 833,700円	217	77	212	20	0	0	3,305人 938,880円
4	第24回日本刀展	10月5日～ 11月6日	27日	3,610人 1,805,000円	131	175	147	0	0	0	4,063人 1,920,600円
5	幕末と米沢	11月19日～ 2月3日	58日	2,138人 641,400円	92	102	55	0	0	0	2,387人 683,200円
6	狩野文信展	2月11日～ 3月31日	40日	1,567人 470,100円	256	80	0	0	0	0	1,903人 529,300円
7	館蔵品展	7月9日～ 7月15日	6日	638人 70,200円	12	79	47	0	0	0	776人 77,840円
合計			241日	25,164人 9,670,500円	1,718	2,584	1,297	192	127	0	31,082人 10,673,320円

(平成7年3月31日現在)

月別入館者数

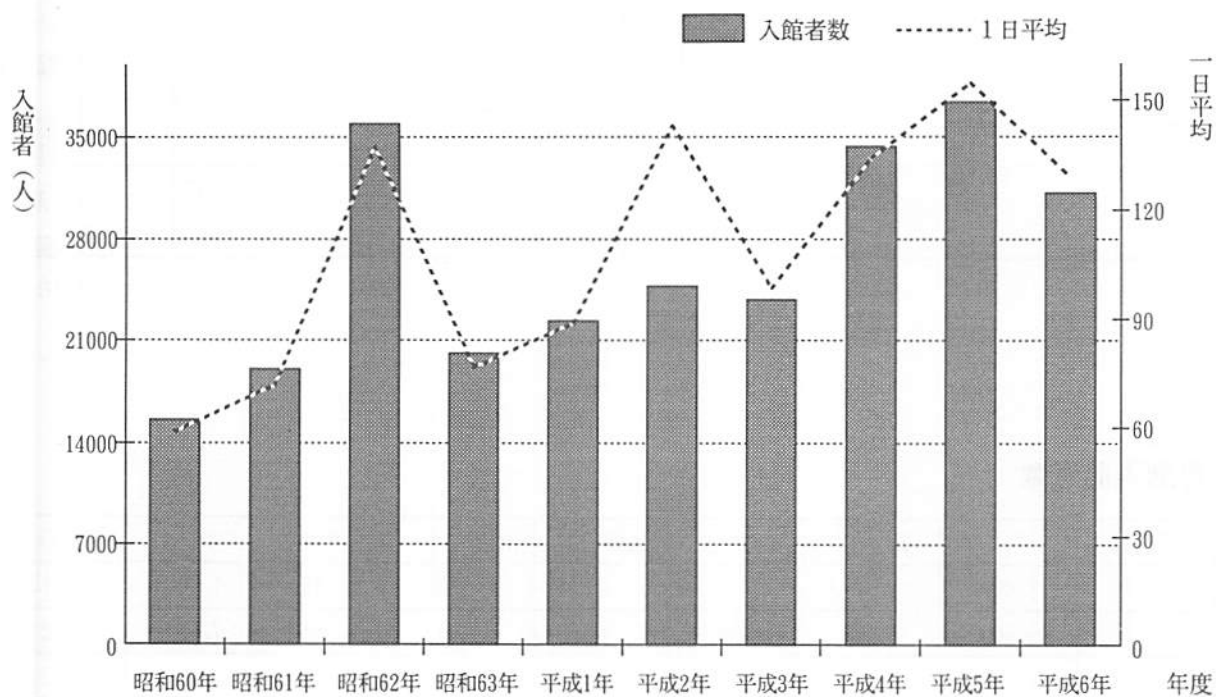
月別	一般	学生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	合計人数	開館日数
4月	1,408人	75人	41人	110人	0人	18人	1,652人	13日
5月	5,900	496	396	166	0	56	7,014	21
6月	2,587	40	120	287	172	15	3,221	23
7月	1,955	98	407	260	0	4	2,724	20
8月	3,220	313	1,186	60	0	34	4,813	18
9月	2,779	217	77	212	20	0	3,305	21
10月	3,093	96	159	62	0	0	3,410	22
11月	1,230	55	37	85	0	0	1,407	14
12月	847	40	42	55	0	0	984	23
1月	546	29	39	0	0	0	614	23
2月	634	75	19	0	0	0	728	17
3月	965	184	61	0	0	0	1,210	26
合計	25,164	1,718	2,584	1,297	192	127	31,082	241

年次別入館者数

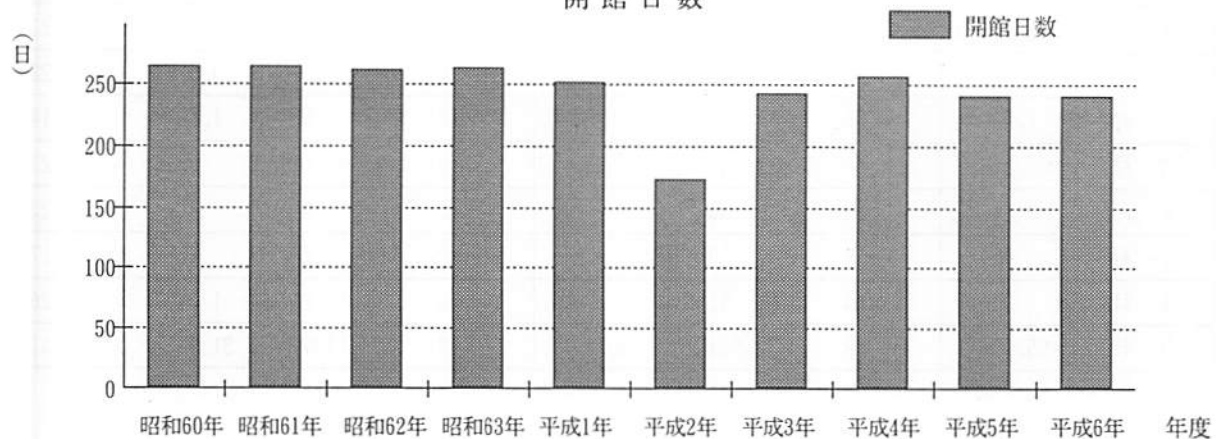
年次	入館者数	開館日数	1日平均
昭和60年	15,585人	265日	58.8人
61年	18,952	265	71.5
62年	35,966	262	137.3
63年	20,128	263	76.5
平成1年	22,317	252	88.6
2年	24,747	173	143.0
3年	23,857	243	98.2
4年	34,272	256	133.9
5年	37,355	241	155.0
6年	31,082	241	129.0

米沢市立上杉博物館年度別入館者数

1日平均入館者数



開館日数



利 用 案 内

○ 開館時間

午前9時～午後5時（但し、入館は午後4時30分まで）

毎週火曜日 館内整理 午前9時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

○ 入館料

区 分		金 額	摘 要
一 般		100 円	20 歳以上の者
学 生		60 円	一般及び児童・生徒を除く者
児 童 ・ 生 徒		40 円	小学校及び中学校の児童又は生徒
団 体	一 般	80 円	20 人以上の場合に限る。
	学 生	45 円	
	児 童 ・ 生 徒	30 円	

備考：期間を定めて特別の展示をする場合は、市長が別に定める額とする。

○ 休館日

毎週月曜日・年末年始（12月29日～1月3日）・祝祭日の翌日・館内整理期間

組織・名簿

米沢市立上杉博物館協議会委員 (平成6年7月1日～平成8年6月30日)

(平成6年7月現在)

山吉明夫	米沢市小学校校長会会長	大峽孟	学識経験者
山本晋一郎	米沢市中学校校長会会長	菊池伸之	〃
大谷昭男	米沢市高等学校校長会会長	鈴木仁	〃
吉野正八	米沢市社会教育委員	黒田信介	〃
栗林金郎	(財)米沢上杉文化振興財団副理事長	佐藤美保子	〃
石栗正人	市文化財保護委員会委員長	鳥海隼夫	〃
伊藤亮一	学識経験者	山村精	〃
上杉虎雄	〃		

(根拠法令等)

1. 博物館法第20条～第22条(博物館協議会)
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年
(参考) 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

(職務) 一博物館法第20条第2項一

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成6年度協議会開催

開催日 3月28日(火)

場所 置賜総合文化センター

内容 報告 平成6年度博物館事業並びに文化財に係る事業の実施状況について
協議 平成7年度博物館事業計画及び予算について

財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた(社)上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、米沢市立上杉博物館の管理運営を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏により、重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色鹿図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。

財団法人 米沢上杉文化振興財団役員 (平成6年4月現在)

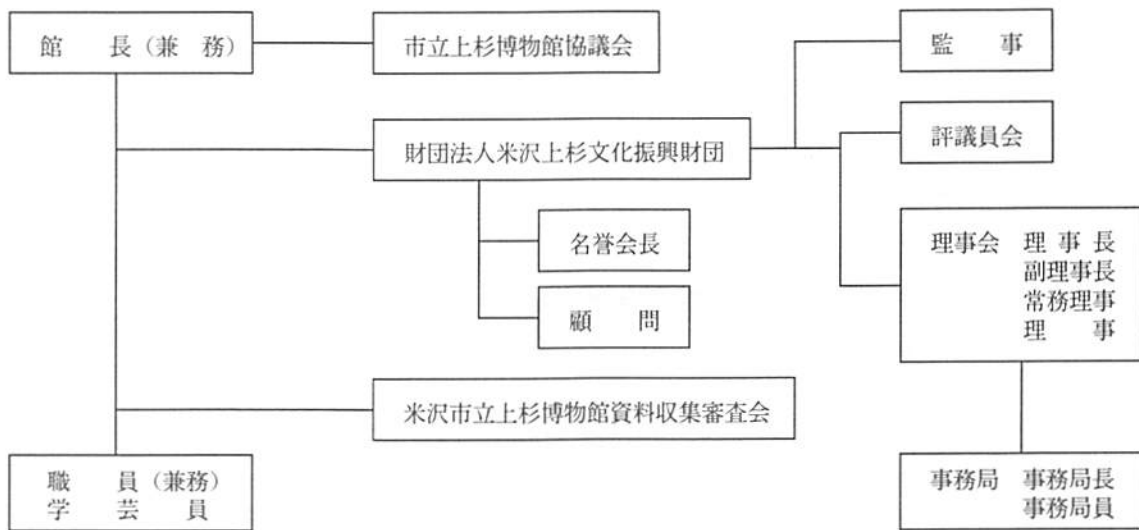
名誉会長	上杉隆憲	理事長	青木厚一
顧問	高橋幸翁	副理事長	栗林金郎
〃	内藤政利	〃	石塚忠夫
〃	種村一郎	常務理事	小口亘

理事	上杉邦憲	九里茂三	松田俊春
	上杉敏子	小嶋彌左衛門	長岡正
	上杉虎雄	遠藤英明	北目二郎
	上杉隆治	椿初枝	石栗正人
	笈統子	黒金義一	大峽孟
	山中絢子	庄司淳	横山一郎
	大乘寺健	相田吉助	佐々木惇
評議員	小泉溥瑛	小林勇	松野良寅
	新田秀次	上泉治	荒井信雄
	山岸才一	勝見吾助	菊池伸之
	清水澄	手塚春夫	須貝力
	井形朝良	塩川勝彦	桜井三男子
	小野榮	太田政子	加藤裕子
	赤木伊勢吉	佐藤美保子	竹田恒平
	水無瀬正一	高橋素子	石川弘毅
	我妻岩吉	高森務	鈴木金造
	荒井政二郎		
監事	平田栞	村岡孝助	安部紀子

事務局

事務局長 沖田良夫

事務局員 角屋由美子(学芸員) 遠藤美穂(学芸員)



米沢市立上杉博物館

館長(兼務)	木村琢美
職員(兼務)	我妻淳一
" "	須佐勝也
" "	平間洋子
嘱託職員	梅津洋子

米沢市教育委員会文化課	課長
"	課長補佐
"	文化財係長
"	文化財主査
"	"

平成6年度

米沢市立上杉博物館年報 Vol.7

編集 米沢市立上杉博物館

(財)米沢上杉文化振興財団

〒992 山形県米沢市丸の内一丁目4-13

☎ 0238-23-7302

発行 米沢市教育委員会

〒992 山形県米沢金池三丁目1-55

☎ 0238-22-5111

平成8年3月31日発行

印刷 有限会社 シティプリント
